

「生きる」ということ

～無言館を創った男 窪島誠一郎～

今、上田市にある無言館館主・窪島誠一郎さんが注目されている。日本テレビ系列の24時間テレビでは、窪島さんを主人公モデルとしたドラマ『無言館』（主演＝浅野忠信）が制作・放送された。11月には、窪島さんの父で、晩年東御市（北御牧村）に居を移し、終の棲家とした作家の故水上勉氏を主人公とした映画『土を喰らう十二ヵ月』（主演＝沢田研二）が全国公開されている。戦争の危機が身近に感じられるようになった時代の中で、戦没画学生の作品を集めた美術館を運営し、齢80歳を超えた窪島さんの思いに、耳を傾けてみようという機運が高まっているといえるだろう。

東京で生まれ育った窪島誠一郎さんが長野県上田市に「信濃デッサン館」を開館したのは1979年。その18年後の1997年には、戦没画学生慰霊の美術館「無言館」を開設した。窪島さんは両美術館の館主を務めるとともに、数多くの著書や演劇、文化活動を通して、今日の社会を深く洞察してきた。

2004年には実父の小説家・水上 勉氏を看取った（享年85）。弱者への眼差し、反戦、反核の思いは、父子に共有されている。

毎年、桜の咲く4月に「無言館」で「成人式」が行われる。20回目の今年は、内田也哉子さん（樹木希林の娘）をゲストに迎え、これからの時代を担う若い人たちにメッセージを贈った。

窪島さんは、昨年9月に開催された「第32回平和のための信州・戦争展 in 長野」でオンライン講演し、信濃デッサン館の設立から「KAITA EPITAPH 残照館」として再出発するまでのいきさつや平和への思いを熱く語った。

その窪島さんも齢を重ねて今年81歳となる。愛する信州に骨を埋めるつもりだ。近著には終活を意識した文も綴られている。

番組は、旧信濃デッサン館と無言館の設立から現在までをたどり、窪島誠一郎さんの数奇な人生を描くヒューマンドキュメントだ。あわせて、来年1月下旬から長野県立美術館で行われる「旧信濃デッサン館コレクション展」に向けて、村山槐多らの主な作品も紹介する。

また、番組には、窪島さんの他、無言館設立のきっかけとなった東京藝術大学名誉教授で洋画家・野見山暁治さんや窪島さんから依頼で同行取材、撮影して写真集を出版している御代田町在住のフォトジャーナリスト・山本宗補さんら、縁の人々が出演し、窪島さんの人となりや思いを立体的に伝える。

○放送日時 2023年（令和5年）1月27日（金）19:00～19:54 フォーカス信州

○製作 プロデューサー 伊藤晴彦（NBS） ディレクター 宮尾哲雄（元NBS）

以上